

2025年度 事業報告および活動計算書

2025年4月1日～2026年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2025年度事業報告書

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2025年 6月20日(金)

決議事項: 第1号議案 2024年度事業報告・活動計算書に関する件

第2号議案 2025年度事業計画・活動予算書に関する件

第3号議案 役員選任に関する件

2. 40周年記念講演会 2025年 6月20日(金)

オンライン開催 参加者: 83名(発表者・事務局含む、以下同様)

「免疫研究と臨床応用」

大阪大学 総長 熊ノ郷 淳 氏

講演会終了後、懇親会 参加者: 78名

3. 理事会 2026年 1月29日(木)

決議事項: 決議事項なし

意見交換: 1) 内閣府/JETROの「バイオコミュニティ拠点強化事業」2025状況報告

2) 内閣府/JETROの「バイオコミュニティ拠点強化事業」2026 支援計画

3) 2025 年事業予実見込および Bioeconomy Hub Japan 2025 収支報告

4) 40 周年記念事業報告

5) 近畿バイオ 会費改定(2027 年度)について

6) 入会状況

4. 新規会員勧誘活動

本年度、正会員9社、個人会員1名、準会員2名の退会があったが、新規入会勧誘活動を積極的に行った結果、新たに正会員15社の入会があり、増口も合わせて全体で9口の増加となった。事業拡大のため、今後も継続的に勧誘活動を行う。

◆退会: 正会員9社(9口)、個人会員 1名、準会員 2名

◆入会: 正会員15社(14口)、増口2社(4口)、個人会員 2名

5. 活動報告会

近畿バイオの会員を対象に、活動報告会を開催した。今年度は、オンラインで2回の開催となった。新規入会会員の事業紹介を行い、終了後にはオンライン交流会も実施した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。

◆2025年 7月3日(木) 参加者: 29名

新規入会会員事業紹介 Biocom Japan Consulting(BJC)

Synapto Ventures

BLA Regulatory

株式会社サイト-ファクト

環境衛生薬品株式会社

東京建物株式会社

アクロバイオシステムズ株式会社

- ◆2025年12月24日(水)
新規入会会員事業紹介

参加者:59名
株式会社ミーバイオ
共栄製茶株式会社
フォーネスライフ株式会社
株式会社アイメックRD
ノーベルファーマ株式会社
一般財団法人大阪科学技術センター
双日株式会社
株式会社FRONTEO
JR西日本不動産開発株式会社
株式会社アールピーエム

6. 40周年記念誌発刊

近畿バイオの40年の活動をまとめた「近畿バイオ 40年のあゆみ」を作成した。冊子は理事、会員、関係者に配布し、電子版は近畿バイオのホームページに掲載した。

II. 業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西(BiocK)

BiocKは、内閣府認定のグローバルバイオコミュニティとして、関西を拠点としたバイオ分野におけるエコシステムの形成を目指し、1)イノベーションの促進、2)ネットワーク形成促進、3)国内外への情報発信に取り組んでいる。事務局は、近畿バイオと公益財団法人都市活力研究所が担当。

今年度は、以下の取組みを行った。

1)委員会

◆第9回委員会

2025年 7月10日(木)

出席32名(BiocK役員4名、委員11名、代理17名)、随行者13名、欠席委員10名

アドバイザー・分科会・認定BC16名、オブザーバー6名、事務局9名、出席合計:76名

1. 開会挨拶(澤田委員長)
2. 審議 役員の選任
3. 「バイオコミュニティの機能強化に向けた取組について」
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔氏
3. 新委員・交代委員紹介:交代委員8名
4. 新分科会紹介:お茶とフレイル研究分科会、ヘルスエクイティDX分科会
5. Bioeconomy Hub Japan 2025 開催報告
6. グローバルスタートアップEXPOの紹介
7. グローバルスタートアップアクセラレーションプログラム(GSAP)状況報告
8. 2024年度活動報告及び決算
9. 2025年度活動計画及び予算
10. 意見交換(モデレーター:坂田副委員長兼統括コーディネーター)
11. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆第10回委員会

2026年2月10日(火)

出席31名(BiocK役員5名 委員7名 代理19名、随行者12名、欠席委員11名)
アドバイザー・分科会・認定BC34名、オブザーバー6名、事務局9名、出席合計:92名

1. 開会挨拶(澤田委員長)
2. 「令和8年度バイオコミュニティ機能強化事業におけるBiocKへの期待」
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔氏
3. 新委員・交代委員紹介:交代委員2名
4. 新分科会紹介:HPPによる健康社会創造分科会、業界AIエコシステム分科会
5. 関西バイオものづくりステアリングコミッティの設置
6. 内閣府「令和7年度バイオコミュニティ機能強化事業」の進捗
7. 内閣府「令和7年度バイオコミュニティ機能強化事業」分科会支援報告
8. 内閣府「令和8年度バイオコミュニティ機能強化事業」の計画
6. 意見交換(モデレーター:坂田副委員長兼統括コーディネーター)
7. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆2026年3月末現在 役員5名、委員37名、アドバイザー35名

2)イノベーションの促進

◆2025年度新規分科会(2件)、合計33件(2026年3月末現在)
HPPによる健康社会創造分科会
業界AIエコシステム分科会

◆第5回分科会会議

2025年 8月28日(木)

出席57名(分科会33名、オブザーバー11名、BiocK13名)

1. 開会挨拶(澤田委員長)
2. 分科会の最新状況報告
 - ①バイオ産業人材育成分科会
 - ②バイオメタン分科会
 - ③メンタルヘルス分科会
 - ④パーソナルデータ分科会
 - ⑤トイレ空間での新たな価値提案分科会
 - ⑥スタートアップ分科会
3. 新分科会活動紹介:お茶とフレイル研究分科会、ヘルスエクイティDX分科会
4. 内閣府グローバルスタートアップ アクセラレーションプログラムについて
5. 関西バイオものづくりステアリングコミッティ(仮称)について
6. 関西バイオものづくりステアリングコミッティ(仮称)についての意見交換
(モデレーター:坂田副委員長兼統括コーディネーター)
7. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆内閣府/JETROの「バイオコミュニティ拠点強化事業」

2025年度から、国のスタートアップ支援プログラムに「バイオコミュニティの機能強化」が新たに加わり、バイオ分野はITに次ぐ成長産業として期待されているが、製品化までの工程が複雑で、多額の資金と長い年月を要するという特有の難しさがある。そこで本事業では、内閣府が進める「各地域のバイオコミュニティおよび産学官の連携システム」に注目し、現地のスタートアップがどのような課題を抱えているのか、どのような支援を必要としているのかを各バイオコミュニティを中心に詳しく調査し、必要な支援を実施した。BiocKとしては下記4つの事業支援を行った。

1. A事業 BioJapan出展
2. B事業 グローバル展開シンポジウム開催

3. C事業 分科会支援
4. D事業 GSAPバイオビジネスマッチング

◆関西バイオものづくりステアリングコミッティ(SC)の設立

遺伝子技術等を活用して微生物等によって物質を生産するバイオものづくりは、社会課題解決と経済成長を同時に実現する分野として注目されている。関西地域は技術的な潜在力を有しており、産業の競争力をさらに強化するため、2026年1月、BiocK内に本SCを設立した。課題を抽出し、WGを組成して課題解決のための活動を展開する。

3)ネットワーク形成促進

◆連携機関登録

2025年度新規登録 4件
連携機関登録 計112件(2026年3月末現在)

◆第4回バイオコミュニティ連携会議

2025年11月28日(金) 沖縄

◆京阪神連携会議(大阪府、京都市、神戸市、BiocK)

2025年 7月14日(木) 京都開催 趣旨と体制変更、国際イベント振り返り
2026年 1月21日(水) 大阪開催 各自治体およびBiocKの取組み紹介

◆日英ヘルスケア・シンポジウム

2026年 2月17日(火) 主催:英国大使館、英国総領事館 ビジネス・通商部
参加者:オンサイト49(関係者除く)、オンライン参加:138

「The Future of UK Life Sciences: Delivering Mutual Prosperity and Enduring Partnership with Japan」

Steve Bates氏(オンライン参加) 英国政府 Office for Life Sciences, Executive Chair
「Health Data Research Service – a Single Gateway to UK’s Health Data」

Jen Boon氏(オンライン参加) Health Data Research Service, Deputy Director,
Data Operations and Partnerships

「New Trend in Therapeutics Research: Open Innovation Bio-Ecosystem & Artificial Intelligence」

Namshik Han氏(会場参加)

・University of Cambridge, Milner Therapeutics Institute Group Leader, Head of AI Research

・University of Cambridge, Cambridge Centre for AI in Medicine Faculty

・University of Cambridge, Cambridge Stem Cell Institute Affiliated Principal Investigator

・Yonsei University, Department of Quantum Information Professor

・Yonsei University, Institute for Basic Science (IBS) Center for Nanomedicine IBS Professor

・CardiaTec Biosciences Ltd CTO & Co-founder

「AI & Quantum: The Promise vs Practice for Tomorrow’s Transformative Technologies」

Simon Karger氏(オンライン参加) Cambridge Consultants,
Building Strategic Partnerships in AI & Intelligent Services

「Collaboration with UK Biotech for Developing Advanced Therapies」

臼田 裕之 氏(オンライン参加) Astellas Pharma Europe Ltd.

Scouting & Transaction Lead, Business Development

「Short introduction to Shionogi’s R&D collaborations in UK」

芝 慶郎 氏(オンライン参加) Shionogi Europe, Director of Global Innovation
「Impactful innovation in drug development」
Antonio Nicolae氏(オンライン参加) Inovia Bio, Co-Founder & CTO
【パネルディスカッション】

モデレーター: 坂田 恒昭氏
パネリスト: 上記登壇者+松井 拓也 氏/小林 博幸 氏

- ◆BiocK&オランダ・ライデンバイオサイエンスパーク(LBSP) ウェビナー
2026年3月31日(火)17:00~18:30(日本時間)、10:00~11:30(オランダ時間)
主催:オランダ・ライデンバイオサイエンスパーク(LBSP)、バイオコミュニティ関西(BiocK)
後援:在大阪オランダ王国総領事館、日本貿易振興機構(JETRO)、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
参加者:オンライン参加:57名(申込数80名)
開会挨拶:Esther Peters 氏(LBSP Director)
来賓挨拶:サンドラ・ペレフロム 氏(在大阪オランダ王国総領事)
LBSP紹介:Esther Peters 氏
BiocK紹介:坂田副委員長兼統括コーディネーター
日本側登壇者
志水 隆一 氏(LINC 事務局長):「AI based Drug Discovery Platform」
大森 一生 氏(Revascular Bio 代表取締役):「血管内皮幹細胞を用いた細胞治療」
オランダ側登壇者
Ihor Feoktistov 氏(Leven Vision 創設者):AIを活用した微生物検査
Federico Muffatto 氏(Digi.Bio 創設者):シングルセル免疫プロファイリング技術
Justin Chotoe 氏(biotactical 創設者兼COO):迅速無菌試験による製造能力強化
Daniel Bruning 氏(InnovationQuarter):南ホラント州のエコシステムと進出支援
閉会の挨拶:坂田副委員長兼統括コーディネーター
サンドラ・ペレフロム氏(在大阪オランダ王国総領事)

4)国内外への情報発信

- ◆ホームページからの情報発信
BiocKホームページを活用し、BiocKの活動状況やバイオ関連イベント情報などを発信した。
- ◆口頭発表および投稿
外部のセミナー等からの依頼に応じ、BiocKの活動紹介を実施した。
また、以下の投稿を行った。
「Bioeconomy Hub Japan 2025 開催報告」JBA B&I 2025年Vol83 No.6
- ◆Bioeconomy Hub Japan 2025実施
2025年 4月17日(木)・18日(金)
会場:ハービスホール(大阪梅田)
主催:Bioeconomy Hub Japan 組織委員会
後援:内閣府、デジタル庁、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、
経済産業省、環境省、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
参加者:339名(国内:290名、海外:25カ国 49名)

プログラムディレクター:BiocK副委員長兼統括コーディネーター 坂田 恒昭氏
テクニカルディレクター:神戸大学 近藤 昭彦氏、京都大学 小川 順氏

テーマ:プラネタリーヘルス

～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

登壇者

環境

Prof. Anthony Guy Capon	Monash University
Prof. Dr. Shahbaz Khan	Director of the UNESCO Regional Office for East Asia
山極 壽一 氏	総合地球環境学研究所 所長
三田 紀之 氏 (代理:佐野 浩 氏)	三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員
竹山 春子 氏	早稲田大学理工学術院 教授

持続的食料システム

Mr. Máximo Torero Cullen	Chief Economist of the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)
Prof. David Tilman	Regents Professor and McKnight Presidential Chair in Ecology at the University of Minnesota, and Distinguished Professor in the Bren School of Environmental Science and Management at the University of California Santa Barbara
江面 浩 氏	筑波大学 生命環境系 特任教授
中村 茂雄 氏	味の素株式会社 取締役 代表執行役社長 最高経営責任者
吉富 愛望 アビガイル 氏	一般社団法人細胞農業研究機構 代表理事

グローバルヘルス

Prof. Sir Peter Karel Piot	Professor of Global Health and former Director of the London School of Hygiene & Tropical Medicine
Dr. Montira Pongsiri	Lead Advisor, Climate Change and Health, Save the Children
小寺 聡 氏	東京大学医学部附属病院循環器内科 特任講師
栄木 憲和 氏	President, Eiki Consulting, LLC (エイキ コンサルティング合同会社)
村木 倫子 氏	大阪大学 経営企画オフィス IR部門 教授

パネルディスカッション:全登壇者

スタートアップ紹介:12社

ポスター発表:28団体

(2)個別マッチング

新規会員の事業拡大を支援するため、以下の取り組みを実施した。

- ◆情報発信:新規会員のビジネス概要を、既存会員、ベンチャーDB掲載企業、本会提携先企業へ紹介
- ◆マッチング仲介:紹介により関心を示した会員・企業との面談設定およびマッチングを仲介

2. バイオベンチャー支援事業

(1)関西バイオビジネスマッチング2025

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目的として、商談会をオンラインにて開催した。

- ◆共催:関西医薬品協会
- ◆協力・後援の8団体を通して広報活動を強化
- ◆協賛:アズワン株式会社及び学校法人佐藤学園
- ◆10月1日募集開始、1月・2月商談実施
- ◆昨年に引き続きEventHubシステムを使用
- ◆出展者向け説明会開催(12月9日、オンライン)

- ◆ピッチ開催(1月9日、オンライン)
- ◆マッチングサポート実施(35社からの依頼に対応)
- ◆実績
 - ブース数:125(企業:94、アカデミア:24、その他:7)
 - 参加者数:198名(企業:136、アカデミア:36、その他:26)
 - ピッチ :59社登壇
 - 商談数 :204件
 - (昨年度の実績:121(企業:85、アカデミア:29、その他:7)、参加者数:215名、商談数:157件)

(2) 2025年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援業務(大阪府)

2019年度から継続して大阪府より本事業を受託している。有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的とし、本事業を実施した。

(2)-1 海外企業とのライフサイエンス分野のパートナーリング機会の提供

本カンファレンスは、大阪府、日欧産業協力センター、Enterprise Europe Network(EEN)を主催として開催し、PMKイニシアティブおよび関西医薬品協会の共催、一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)他の協力のもと実施した。

オンライン開催とオンサイト開催の双方で実施し、参加者対参加者の個別面談、企業によるピッチセッション、ポスター展示、レセプションにおけるショートプレゼンおよびネットワーキング等を行い、日欧間の協業機会創出とネットワーク形成を推進した。また、今年度は、本イベントの10周年および大阪・関西万博開催年の節目にあたり、以下の特別企画を実施し、さらなる国際連携を推進した。

- ✓ 多くの面談リクエストが寄せられると予想される、大手製薬会社(日本から小野薬品工業、住友ファーマ、欧州からバイエル、メルク)に対しては、専用ブースを設置した。
- ✓ ピッチセッションでは、日本6社を対象として、Vienna Startup Packageを賞品にしたピッチコンテストを行なった。
- ✓ 「日欧におけるエコシステム／クラスター間の協業にむけて」というテーマで、パネルディスカッションを開催した。

「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス2025」の開催

実施内容

開催日 :オンライン:2025年 9月24日(水)~26日(金)
 オンサイト:2025年10月 6日(月) 9:00~19:30

開催場所:オンライン:商談専用システム(b2match)
 オンサイト:ホテル阪急インターナショナル

開催内容:オンライン:開催期間内で参加者が自由に面談時間を設定
 オンサイト:個別商談会(25分枠)

対象分野:創薬、創薬支援(AI・ソフトウェア含む)、再生医療(細胞治療・遺伝子治療含む)、デジタルセラピューティクス(予防、診断、治療に用いられるデジタル技術、医薬品とデジタル機器のコンビネーションなど)

参加実績:事業全体 計192社・団体
 大阪会場 :135社・団体
 オンライン :150社・団体

* 昨年度:事業全体 計159社・団体
 大阪会場 :109社・団体
 オンライン : 80社・団体

商談件数:合計339件 大阪会場:262件、オンライン: 77件

* 昨年度 合計302件 大阪会場:229件/オンライン:73件

参加国数 : 18か国

* 昨年度: 22か国

(2)ー2 産学官連携情報交流セミナーの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等のニーズを踏まえたビジネス支援のための情報交流セミナーを企画・実施した。実施にあたっては、中小・ベンチャー企業のニーズを把握するとともに、大阪府及びPMKイニシアティブと連携して企画検討業務を実施した。本セミナーは、すべてオンライン(zoom)での開催とし、近畿バイオでは、案内チラシの作成、それを用いての広報活動、HPでの参加受付、視聴者の管理、zoomウェビナーでの講演実施、セミナーで使用する資料の作成、アンケートの準備と集計等を行った。アンケート集計結果からは、いずれの回も満足度は高い、との回答が得られた。

◆第1回 産学官連携情報交流セミナー

2025年 8月 1日(金) 参加者: 51名 (オンラインのみ)

「既知から未知を発見するAI「KIBIT」を活用した創薬の標的探索、DRとその仮説生成」

株式会社FRONTEO 取締役/CSO(Chief Science Officer) 豊柴 博義 氏

「AIを駆使したタンパク質デザインの現状と応用」

大阪大学 産業科学研究所 准教授 曾宮 正晴 氏

◆第2回 産学官連携情報交流セミナー

2026年 2月 5日(木) 参加者: 86名 (オンラインのみ)

「AIで変わる創薬の入り口: 最新トレンドから見る”技術だけでは埋まらない溝”と突破口」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所(NIBIO)

AI健康・医薬研究センター センター長 夏目 やよい 氏

「創薬AIプラットフォームの現状と展望」

一般社団法人ライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC) 事務局長 志水 隆一 氏

(2)ー3 海外展開サポートの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等の海外展開を促進するとともに、(2)日欧パートナーング・カンファレンスの参加者を増加させ、その効果をより向上させるため、海外展開にあたり障壁となりうる言語・文化・商習慣等の違いや、海外企業に対して魅力的なプレゼンテーションを行うために必要な知識や技術を習得することを目的としてセミナーを実施した。

◆第1回 海外展開サポートセミナー(ハイブリッド開催)

2025年 9月 1日(月) 参加者: 71名(うち会場参加: 27名)

「国境も組織も越えて向き合うコミュニケーションギャップとそこから生まれるイノベーション」

京都大学成長戦略本部統括事業部イノベーション領域

上席イノベーションプロデューサー

京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特定教授 鈴木 忍 氏

「スタートアップの海外展開・連携に向けたヒント」

一般社団法人 ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン

事務局長 高橋 俊一 氏

◆第2回 海外展開サポートセミナー(ハイブリッド開催)

2025年 9月25日(木) 参加者: 54名(うち会場参加: 13名)

「バイオ医薬品における米国市場への外国企業の参入と関連薬事の動向」

BLA Regulatory, LLC 創業者 兼 主任コンサルタント Frank Li, MD, PhD, RAC.氏

「日本から世界へ: ビジネスディベロップメント成功のための戦略」

Greenstaff Lifesciences Japan

(3) BioJapan2025出展支援

2025年10月 8日(水)～10日(金)にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2025にて、一定区画のブースを確保し、近畿を中心に活動するバイオ関連の中小ベンチャー企業から出展を募り、14社の共同出展を実施した。

〈出展企業〉

RDサポート株式会社、H.U.セルズ株式会社、学校法人佐藤学園OBMリサーチセンター、片山化学株式会社、株式会社KRI、神戸天然物化学株式会社、KookminBio Co., Ltd.、サンヨーファイン株式会社((株)大阪ソーダ)、株式会社シーテック、株式会社テクノプロR&D社、一般社団法人日本マイクロバイオームコンソーシアム、株式会社村田製作所、株式会社MORESCO、バイオコミュニティ関西

(4) バイオベンチャーデータベース

バイオインダストリー協会(JBA)と共同で「バイオベンチャーデータベース」を運用している。昨年度、掲載数の拡大に向けた方策についてJBAと協議した方針に従い、京都グリーンケミカル・ネットワークや彩都の協力を得て、各団体の関連ベンチャーへ登録の依頼を送付した。

全掲載件数 2026年3月末現在:日本語サイト 369件、英語サイト 230件
2025年3月末現在:日本語サイト 347件、英語サイト 217件
2024年3月末現在:日本語サイト 251件、英語サイト 157件

(5) 「研究シーズマッチング～関西発・最先端ライフサイエンスシーズとの出会い!～」

参加者:57名(オンサイトのみ)

2026年 1月22日(木)、大阪府主催、理化学研究所・大阪大学大学院工学研究科 テクノアリーナ 細胞製造コトづくり拠点共催のもと、Nakanoshima Crossで「研究シーズマッチング～関西発・最先端ライフサイエンスシーズとの出会い!～」を開催した。本事業は、大阪府が健康・医療関連産業のリーディング産業化を推進する取組の一環として、大阪・関西に集積する大学・研究機関が有する最先端のライフサイエンス研究シーズを企業へ紹介し、アカデミアと企業の連携関係の構築を通じて研究成果の社会実装および事業化を促進し、オープンイノベーションの創出につなげることを目的として実施した。大阪府が主催し、近畿バイオは運営のうち、参加する事業会社、スタートアップ等の募集、イベントの実施、アンケートの取りまとめ等を担当した。

司会

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻

生物プロセスシステム工学領域 主幹教授

(兼)工学研究科テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点 拠点長 紀ノ岡 正博 氏

発表研究者

1) 超硫黄分子を活かした細胞休眠技術の開発

京都薬科大学 医療薬科学系 薬剤学分野 教授 異島 優 氏

2) 尿中バイオマーカーを用いた壮年期からのフレイル予防システムの開発

京都産業大学 生命科学部 教授・大学院長 加藤 啓子 氏

3) 高分子医薬の細胞内導入技術の開発と展開

京都大学 化学研究所 助教 川口 祥正 氏

4) 日本発・世界初のCO中毒解毒薬の開発および社会実装

同志社大学 理工学部機能分子・生命化学科 教授 北岸 宏亮 氏

5) 吸血行動の背後にある蚊の生理と代謝

理化学研究所 生命機能科学研究センター

代謝・行動生理学理研ECL研究チーム

理研ECL研究チームリーダー 佐久間 知佐子 氏

6) ライフサイエンスを「計算可能」に! ～研究するAI・ロボットが紡ぐ科学～

- 理化学研究所 生命機能科学研究センター
バイオコンピューティング研究チーム 上級技師 田中 信行 氏
- 7)がん幹細胞の増殖を抑制する新規低分子化合物
関西医科大学 医学部 生理学講座 講師 林 美樹夫 氏
- 8)生体イメージングで細胞社会を覗く
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
医薬基盤研究所 創薬デザイン研究センター
創薬イメージングプロジェクト サブプロジェクトリーダー 藤井 健太郎 氏
- 9)シングルセル解析を支援する光応答性細胞付着表面
大阪大学 産業科学研究所
分子システム創成化学研究分野 教授 山口 哲志 氏

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に貢献することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、20年目を迎えて、延べ80回の研究会を開催した。今後も継続して機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活かされていくよう、科学的根拠に基づいた機能性・有効性・安全性等を議論し、健康食品の信頼性を高めていく交流の場として継続実施した。

- ◆第1回研究会:2025年 6月30日(月) 参加者:25名(うち会場参加:21名)
「食品成分がもつ免疫調節機能」
十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 教授 辻 典子 氏
「感覚栄養学とポリフェノール」
芝浦工業大学 システム理工学部 教授 越阪部 奈緒美 氏
「食品機能とマイクロRNA」
九州大学 大学院農学研究院 生命機能科学部門
食料化学工学講座 食糧化学分野 主幹教授 立花 宏文 氏
「カロテノイドとビタミンAによる骨格筋の調節」
大阪公立大学 大学院農学研究科 生命機能化学専攻 助教 北風 智也 氏
- ◆第2回研究会:2025年12月 1日(月) 参加者:28名(オンラインのみ)
「腸内細菌叢-宿主のクロストークを媒介するマイクロRNAと食餌要因」
北海道大学 大学院農学研究院 基盤研究部門 生物機能化学分野
食品機能化学研究室 教授 園山 慶 氏
「自身の脂肪酸バランスの状態を知って、日々の食生活に活かそう」
麻布大学 発ベンチャー
株式会社食機能探索研究所BABILON 取締役 原馬 明子 氏
「中枢NAD+代謝に着目した中枢-骨格筋連関とサルコペニアについて」
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター ジェロサイエンス研究センター
中枢性老化-骨格筋代謝-運動機能制御研究 プロジェクトチーム
プロジェクトリーダー 伊藤 尚基 氏

また、神戸薬科大学と共催で、第5回「関西くすりと健康食品フォーラム」を開催した。今年度は、サントリーウエルネス株式会社 品質部 櫻井 護 氏にご登壇いただいた。

(2) バイオの次世代を考える会

本会は、アカデミア・産業界から専門分野の最新の研究・動向を紹介し、議論することで、関西を中心にエコシステムを根付かせ、バイオエコノミー推進に貢献することを目的に発足した。

そのためには、産官学のバイオニューリーダーの密な協力が不可欠と考え、若手のネットワーク形成とオープンイノベーションに繋がる各ステークホルダーの交流活動を目的として再スタートした。

- ◆2025年 7月15日(火) 会員限定会議
「日本のバイオテクノロジーを加速させる未来戦略・グラントデザインを議論する」
- ◆2025年11月14日(金) 会員限定会議
「合成生物学の現状と将来展望」
- ◆2025年12月 2日(火) 会員限定会議
国立研究開発法人科学技術振興機構との意見交換会

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、活動している。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患や、老化、疲労、ストレスなどの健康状態、美容などと関連しており、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性がある。

今年度は以下のオープンセミナーおよび会員限定セミナーを企画し、実施した。

- ◆2025年 7月 1日(火) 会員総会・第1回研究会
ハイブリッド開催 参加者:22名(うち、オンサイト:13名)
会員総会
「最新の毛細血管研究動向」
東北大学 SiRIUS(医学イノベーション研究所)所長
東北大学 大学院医学系研究科
糖尿病代謝・内分泌内科学分野 教授 片桐 秀樹 氏
- ◆2025年 8月 6日(水) 第2回研究会 参加者:97名(公開・オンラインのみ)
「サルコペニアにおけるゴースト血管の関与」
大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉 伸幸 氏
「セルフ型毛細血管スコープによるエビデンスベースヘルスケアと社会実装の可能性」
あっと株式会社 代表取締役 武野 團 氏
「爪先毛細血管指標と毛細血管に関わる機能性表示に向けて」
あっと株式会社 藤井 千春 氏
毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアムについて(会員募集)
NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長 国松 武史
- ◆2025年11月18日(火) 第3回研究会 参加者:14名
「血管の形成・機能維持と疾患・加齢に伴う破綻」
日本医科大学 先端医学研究所 病態解析学部門
大学院医学研究科 分子細胞構造学分野
大学院医学研究科 分子細胞構造学分野 教授・研究所長 福原 茂朋 氏
MTG社 大阪・関西万博関連イベント 動画配信
国際シンポジウム、国際シンポジウム:着るだけで血行促進させる衣服技術
- ◆2026年 2月 3日(火) 第4回研究会 参加者:17名
「Type 2 diabetic liverを起点とした包括的代謝学研究」
金沢大学医薬保健学総合研究科 内分泌・代謝内科学 教授 篁 俊成 氏
「副腎皮質リモデリングの破綻の分子機構と病態生理的意義」

九州大学 大学院医学研究院 病態制御内科学分野(第三内科)
主幹教授 小川 佳宏 氏

4. セミナー・講演会

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同でオンライン開催した。

モデレーター:大阪大学 大学院医学研究科 教授 竹田 潔氏
大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒昭氏

◆第44回:2025年 7月 8日(火) 参加者:85名
「産学連携で推進する標的アルファ線核医学治療の社会実装」
大阪大学・核物理研究センター長 中野 貴志 氏
「GPCRシグナルの精緻解析から解明する統合理論」
京都大学・大学院薬学研究科・教授/
東北大学・大学院薬学研究科・教授 井上 飛鳥 氏

◆第45回:2025年10月23日(木) 参加者:123名
「21世紀の国際感染症対策と日本」
大阪大学 ワクチン開発拠点
先端モダリティ・ドラッグデリバリーシステム研究センター・特任教授 高島 義裕 氏
「mRNA創薬の可能性と未来」
大阪大学 感染症総合教育研究拠点(CiDER)
臨床生命工学チーム 教授 位高 啓史氏

◆第46回:2026年 2月 4日(水) 参加者:70名
「次世代メタボローム分析技術」
九州大学生体防御医学研究所 主幹教授 馬場 健史 氏
「造血幹細胞を用いた神戸での挑戦」
神戸大学 大学院医学研究科 生化学・分子生物学講座細胞医科学
教授 宮西 正憲 氏

5. 海外交流

(1) 新春トークセミナー・新春国際交流会

近畿バイオ会員のみ参加可能(オンサイトのみ)で新春トークセミナーを開催した。

◆2026年 1月29日(木) 参加者:65名(オンサイトのみ)
「バイオテクノロジーの最新潮流2025/2026」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
/株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満氏

【海外機関ご紹介】

9団体

イスラエル大使館/英国総領事館/オーストラリア連邦・在大阪オーストラリア
総領事館/オランダ経済省企業誘致局・在大阪オランダ王国総領事館/
タイ投資委員会(BOI)大阪/アリゾナ貿易投資事務所日本/米国ペンシルベ
ニア州政府日本投資事務所/米国メリーランド州政府日本投資事務所/
香港貿易発展局

6. その他

(1)西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市の諸事情により今年度は中止となった。

(1)メルマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして配信した。

定期配信(2回/月)

臨時配信13回